

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

第3章 めぐるのいきもの

3-1 めぐろで見られるいきもの

(1) めぐろの森



みどりに求められる役割の供給拠点として、区内で特に優れた自然環境を有する公園や大学等の既存の大規模緑地を中心に、周囲の「まちの樹林」や「いきものの庭」を含め、みどりの保全と緑化を推進する8つのエリアを「めぐろの森」として位置付けています。

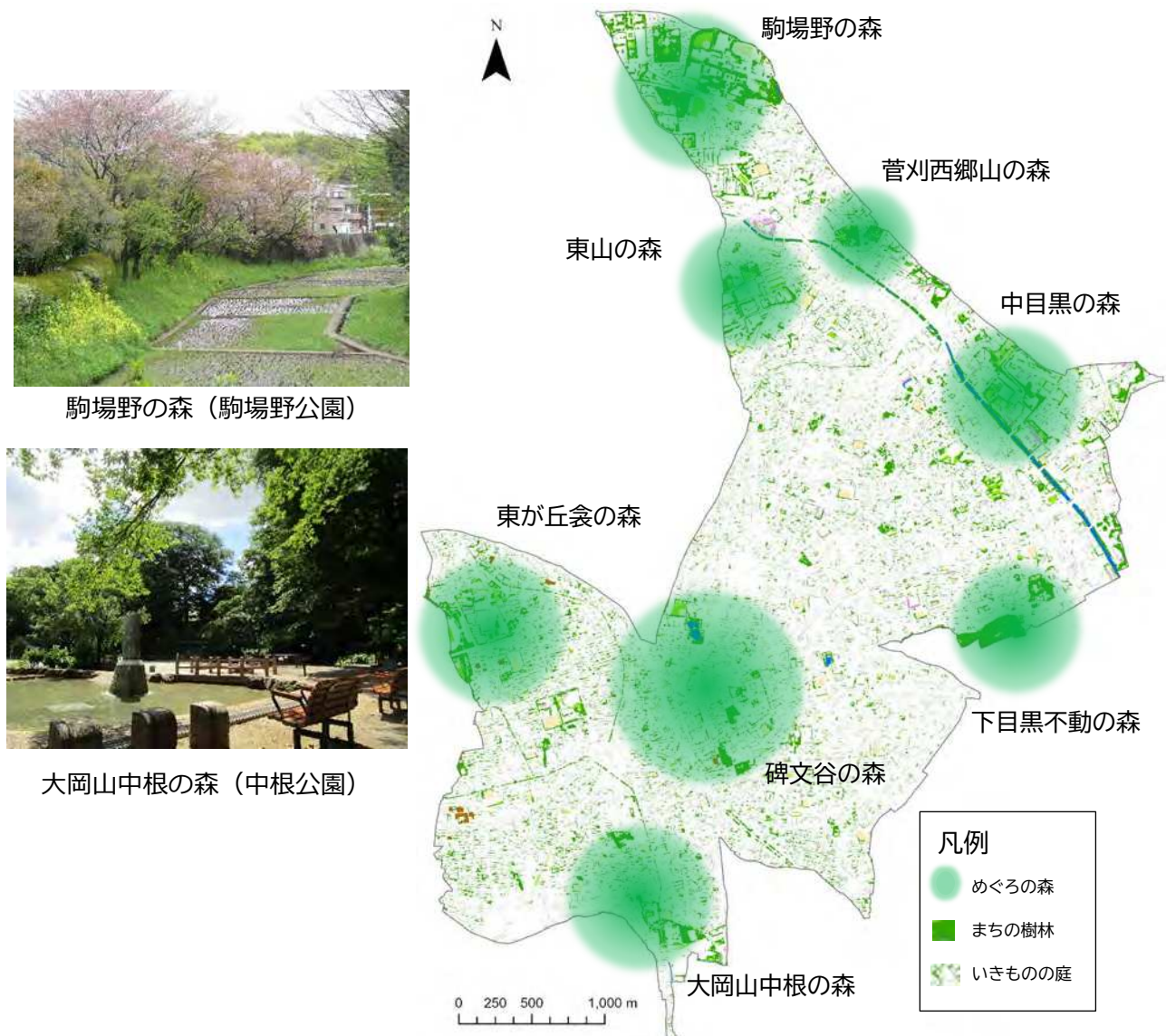


図 3-1 「めぐろの森」の分布

まちの樹林:市街地に存在し、いきものの分布域の拡大等の機能を持つ拠点となる緑地で、公園、学校・公共施設内の樹林、社寺林、保存樹林等があります。

いきものの庭:個人の庭やマンションの緑地などの民有地や公共施設等の敷地をいきものの庭として設定し、みどりの軸により、いきものの生息・生育環境を広げていきます。さらに樹木、草地、花壇、畑、池、屋上緑化などによる多様な環境によるみどりや土の面が目黒区全域に広がり、まち全体にいきものとのふれあいの場が実現することを目指します。

表 3-1 各めぐろの森の現況①

<p>駒場野の森</p>	<p>駒場公園、駒場野公園、東京大学駒場キャンパス一帯</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●駒場野公園は、田んぼ、ため池など里山的環境を有する区内の基幹公園です。 ●周囲には、駒場公園、東京大学駒場キャンパスと大規模な緑地が隣接しています。 ●都立代々木公園、明治神宮まで約 1.4 kmで、これらを含め、生物多様性の核が形成されていると考えられます。 	
	<p>見られるいきもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水辺ではコサギが食べ物を探し、草地ではヒキガエルやコバネイナゴが見られます。 ●夏にはシオカラトンボ、オニヤンマ、ウスバキトンボが飛び交い、秋にはアキアカネが舞います。 ●林ではコゲラが活動し、ムクドリも姿を見せるなど、多くの鳥が暮らしています。

表 3-2 各めぐろの森の現況②

<p>東山の森</p>	<p>東山公園、目黒天空庭園一帯</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●東山公園は、草原が中心の明るい公園で、区民により維持管理がなされているビオトープと、樹林で構成されています。 ●周辺には、東山貝塚公園、目黒天空庭園などがあり、直線距離約 350m の地点に、世田谷区立世田谷公園があります。 	
	<p>見られるいきもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●樹林ではオナガやシジュウカラが子育てをしています。 ●水辺にはメダカが泳ぎ、クロスジギンヤンマやオオシオカラトンボ、クロイトトンボが産卵しています。 ●湿った草地にはクサヨシやイグサが茂り、時にはシジュウカラなどの小鳥が水浴びをします。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

表 3-5 各めぐろの森の現況⑤

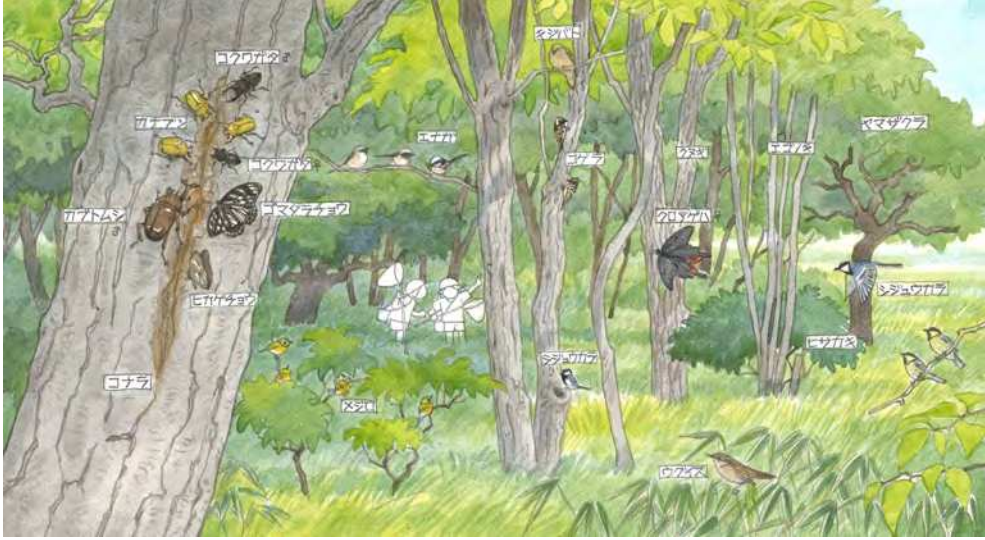
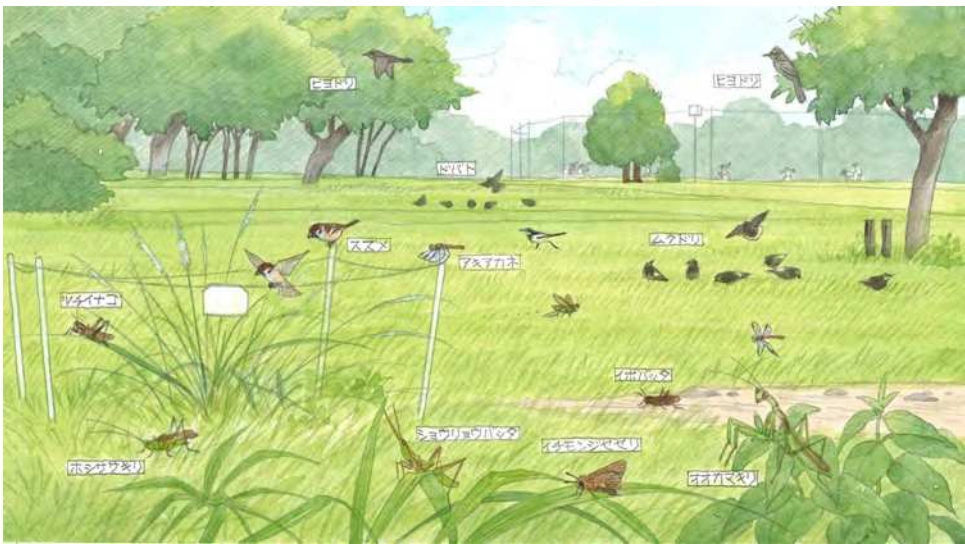
<p>下目黒不動の森</p>	<p>都立林試の森公園、目黒不動尊一帯</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●下目黒不動の森は、区内一の規模と豊かな樹林を有する都立林試の森公園を中核施設とし、目黒不動尊には豊かな天然林が残されています。 ●都立林試の森公園は、様々ないきものの繁殖の場となり、周辺地への重要な供給源となっています。 	
	<p>見られるいきもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雑木林にはコナラやクヌギが立ち並び、コクワガタやカブトムシ、ゴマダラチョウなどの昆虫が暮らしています。 ●メジロやエナガ、キジバト、コゲラ、シジュウカラなどの鳥類が見られ、春にはヤマザクラやエゴノキが彩りを添えます。

表 3-6 各めぐろの森の現況⑥

<p>碑文谷の森</p>	<p>碑文谷公園、清水池公園、すすめのお宿緑地公園一帯</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●碑文谷公園、すすめのお宿緑地公園、碑文谷八幡宮など、約 1ha の緑地が散在しています。 ●碑文谷公園、清水池公園には大きな池が、すすめのお宿緑地公園、民地には質の高い樹林があり、複数の緑地で、総合的な「森」を形成しています。 	
	<p>見られるいきもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●草地では、トノサマバッタやショウリョウバッタ、ホシササキリが跳ね回り、空にはアキアカネが舞います。 ●林ではヒヨドリやスズメ、ムクドリ、ドバトが見られます。 ●池の周りではシオカラトンボやアカトンボの仲間が多く生息しています。

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章
第8章
第9章
第10章
第11章
資料編

表 3-7 各めぐろの森の現況⑦

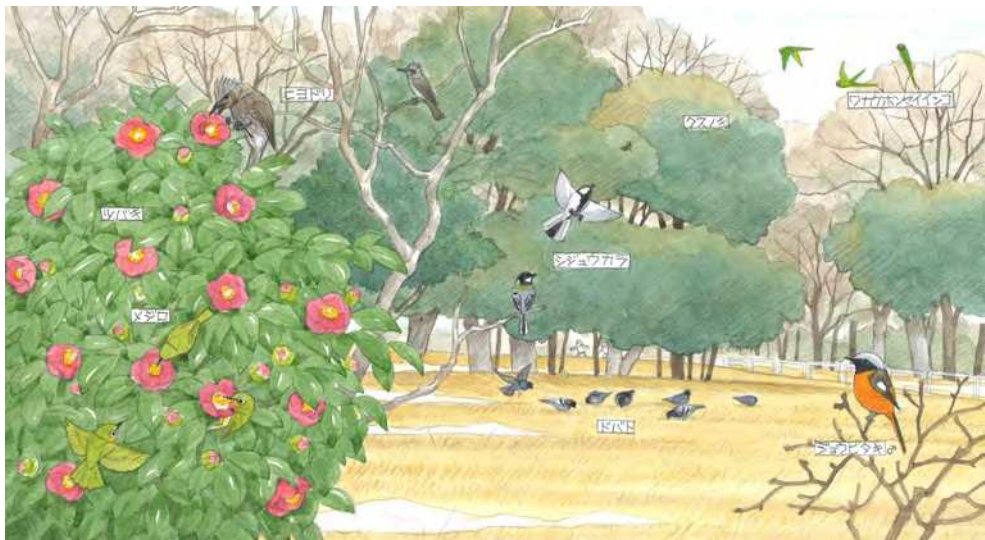
東が丘衾の森	都立駒沢オリンピック公園一帯
<ul style="list-style-type: none"> ● 都立駒沢オリンピック公園や、隣接する病院や学校などの公共施設が主な緑地です。 ● 都立駒沢オリンピック公園の樹林や、住宅地の庭のみどり、衾町公園、東根公園、めぐろ区民キャンパスなどの小規模公園が、いきものにとって重要な緑地となっています。 	
	見られるいきもの
<ul style="list-style-type: none"> ● 林にはクスノキやツバキが茂り、メジロやシジュウカラが枝を渡ります。 ● 冬にはジョウビタキが訪れ、時折ワカケホンセイインコの鮮やかな姿も見られます。 ● ヒヨドリやメジロがツバキや桜の蜜を吸いに来ます。 	

表 3-8 各めぐろの森の現況⑧

大岡山中根の森	東京科学大学大岡山キャンパス、中根公園一帯
<ul style="list-style-type: none"> ● 東京科学大学周辺と中根公園が主な緑地となり、呑川沿いの段丘斜面に位置する残存林を含んでいます。 ● 近接している大田区立洗足池公園と連携し、地域のいきもの重要な緑地となっています。 	
	見られるいきもの
<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅地に近いこの森では、都市鳥と言われるキジバトやスズメ、ムクドリが身近に観察できます。 ● 秋になると野鳥の埒(ねぐら)争いが激しくなります。 ● オナガやツミが古くからほとんど変わらない姿を残した貴重な林を利用して子育てをしています。 	

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

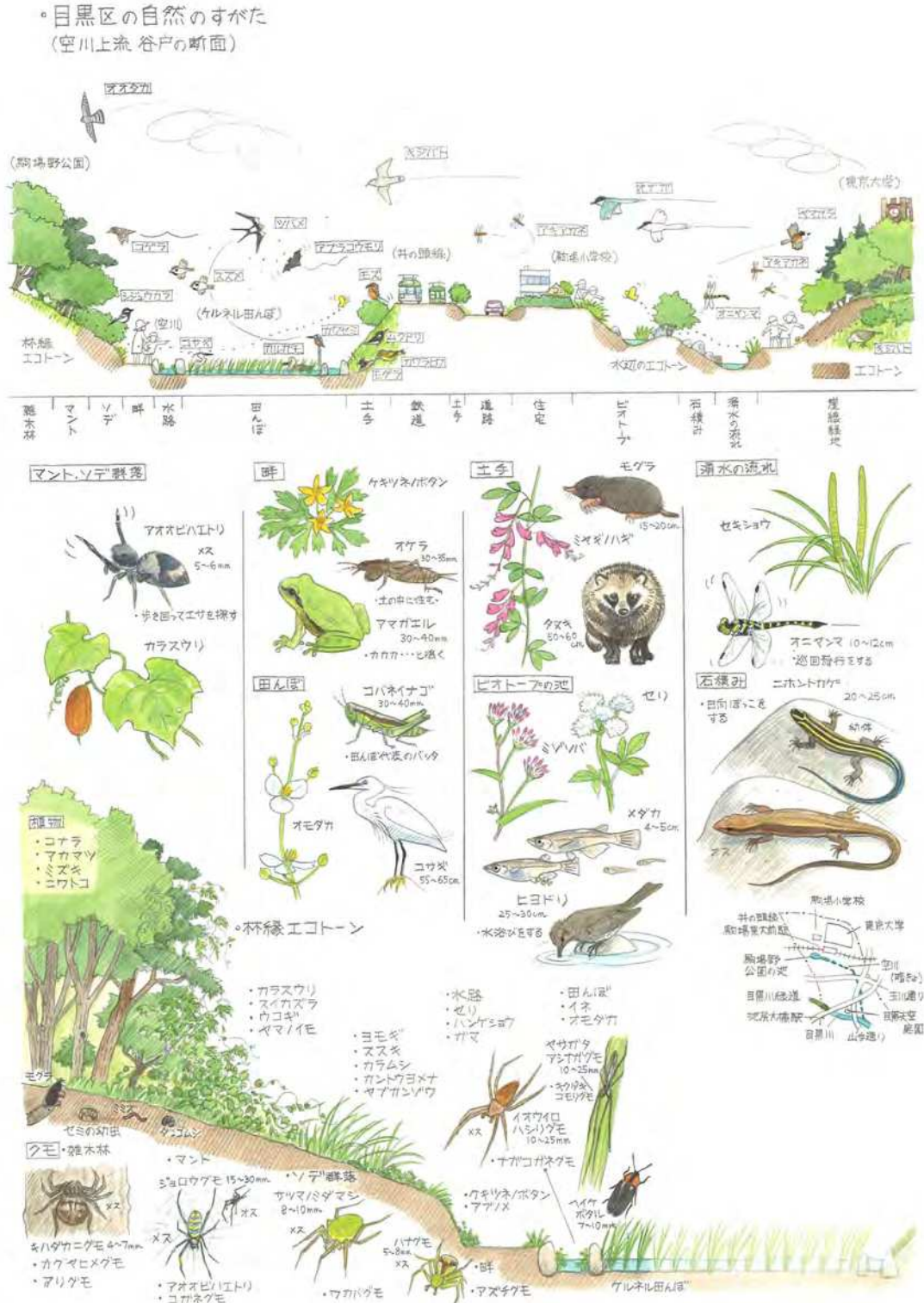
第11章

資料編

(2)自然のすがた



目黒川流域の空川の源流部近く、駒場野公園と東京大学駒場 I キャンパスの間に見られる谷戸地形の断面と、そこに見られるいきものを示したものです。いきものは種ごとに特有な生活スタイルがあり、生息・生育にふさわしい環境の条件をもっています。



注)掲載している動植物は、かつて生息・生育していた種を含みます。

図 3-2 いきものの暮らす場所

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章
第8章
第9章
第10章
第11章
資料編

(3)いきもの住民台帳



「住民台帳」の名は、身近な場所に暮らす「いきもの」たちを、私たちとともにすむ「目黒区の住民」としてとらえたもので、「いきもの住民台帳(動植物目録)」は、区内で見られる野生動植物について、区民から寄せられた観察記録等を活用し、区民とともに作りあげてきた台帳です。

「いきもの住民台帳」における、区内で確認されているいきものは、3,695種です。市街化が進んだ都会でありながら、まだ数多くのいきものが暮らしていることがわかります。これは、住宅地や公園のみどり、目黒川などの水辺など多様な環境があるほか、自然通信員等の区民による継続した観察の記録(区民による身近な生物調査等)が区に集約されているためです。

国や東京都は、絶滅のおそれのある野生生物の種についてリスト(レッドリスト)を作成し公表しています。区内では、東京都の区部での確認が少なくなっているカワセミやリスアカネなどが確認されています。

一方、アズマヒキガエルやツバメなど近年は見られなくなったいきものや、ワカケホンセイインコやミシシippアカミミガメ、アカボシゴマダラ(チョウ)などの外来生物の生息が確認されています。特に生態系等に被害を及ぼす恐れのある特定外来生物については、対策が必要となっています。

表 3-9 目黒区の動植物種数(令和7(2025)年3月までのいきもの住民台帳を集計)

分類	区内確認種類数	絶滅のおそれのある地域個体群																	特定外来生物	
		東京都										国								
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	留意種	合計	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足		合計
●植物	1541	21	0	0	20	14	26	7	12	0	100	0	0	1	3	15	30	0	49	4
●きのこ類	314	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
●哺乳類	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
●鳥類	187	6	0	0	14	13	15	9	9	2	68	0	0	1	2	7	8	2	20	2
●爬虫類	14	0	0	3	2	0	2	1	0	0	8	0	0	0	0	0	1	1	2	3
●両生類	9	0	0	0	4	2	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	2	1
●魚類	33	0	0	0	3	1	1	1	2	2	10	0	0	0	1	2	1	0	4	3
●クモ類	125	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0
●昆虫類	1437	9	0	0	13	11	16	12	2	0	63	0	0	1	2	2	6	2	13	1
●甲殻類	11	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1
●貝類	15	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
合計	3695	36	0	4	56	41	64	30	25	11	267	0	0	3	8	26	50	6	93	16

注)判定基準 東京都レッドリスト(本土部)2020年版見直し版(東京都環境局)
東京都レッドリストのカテゴリー区分は以下のとおりである。

名称	基本概念	
絶滅	EX	過去の生息が確認されており、飼育下・栽培下含め絶滅している種
野生絶滅	EW	飼育下・栽培下で存続しているが野生下では絶滅している種
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	減少要因が引き続き作用する場合に野生での存続が困難な種
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧ⅠB類	EN	近い将来野生での絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧Ⅱ類	VU	減少要因が引き続き作用する場合、近い将来 CR+EN に移行することが確実な種
準絶滅危惧	NT	絶滅危険度は少ないが条件によっては上記区分へ移行する要素ある種
情報不足	DD	絶滅危惧カテゴリーへ移行する属性があるが、情報が十分でない種

環境省レッドリスト 2020(環境省)

環境省レッドリストのカテゴリー区分は以下のとおりである。

名称	基本概念	
絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種

(4) 身近ないきものの現況



平成 26(2014)年に策定した「目黒区生物多様性地域戦略」の取組成果を検証するために、令和6(2025)年度に表 3-10に示す目黒区内の区立公園等4地点、及び都立公園2地点の計6地点を対象に生物相(鳥類・昆虫類・両生類、爬虫類、ほ乳類・水生生物・植物)の現況把握調査を行いました。その結果、身近な場所に、身近ないきものや希少種が見られる環境が残されていることがわかりました。

表 3-10 地点名称並びに地点位置

対象地(公園)名	目黒区風景区分	所在地
1 東山公園	草はら、小さなみどり	東山
2 目黒天空庭園	小さなみどり	大橋
3 中目黒公園	草はら、小さなみどり	中目黒
4 都立林試の森公園	都市の森、小さなみどり	下目黒
5 都立駒沢オリンピック公園	都市の森	東が丘
6 目黒川	広がりのある水辺	—

○ 確認されたいきもの

鳥類

- 通年(繁殖期、越冬期)確認種が最も多く15種確認されました。また、繁殖期だけに見られた種は5種、同越冬期のみが4種確認されました。
- 確認種としては、スズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなど都市鳥と言われる種が多くを占めました。外来種のワカケホンセイインコも確認されています。

昆虫類

- 111種が確認されました。分類群で見ると、ナミアゲハ、モンシロチョウなどのチョウ類が30種、カナブン、ナミテントウなどの甲虫類が29種確認されました。
- また、タマムシ、ハチモドキハナアブ、ホシミスジなど東京都レッドデータブックに記載されている種も確認されました。

両生類、爬虫類、ほ乳類

- 爬虫類8種、両生類3種が確認されました。哺乳類に関しては明確な確認はできませんでした。
- ただし、中目黒公園のピオトープ池脇でアライグマとみられる足痕が確認でき、生息している可能性があります。

水生生物

- 現地調査対象地点5か所のうち、水場環境を有する3地点(東山公園、中目黒公園、林試の森公園)で実施し、魚類5種、水生生物6種が確認されました。
- どの地点も、条件付特定外来生物のアメリカザリガニの侵入が確認されました。中でも、中目黒公園、林試の森公園は個体数が多く、1回の調査で100匹以上が確認されています。

植物

- 草本種105種、木本種76種、つる植物12種の計193種が確認されました。
- いずれの種も林試の森公園が最も多い結果となりました。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編

鳥類



シジュウカラ(東山公園)



メジロ(林試の森公園)



ジョウビタキ[オス](中目黒公園)

昆虫類



ナミアゲハ(中目黒公園)



サトキマダラヒカゲ
(駒沢オリンピック公園)



ウスバキトンボ(目黒天空庭園)

両生類・爬虫類



ヒバカリ(中目黒公園)



イシガメ(林試の森公園)



スッポン(林試の森公園)

水生生物



アメリカザリガニ(中目黒公園)



モツゴ(林試の森公園)



クロイトトンボ(東山公園)

植物



緑化花壇(目黒川緑道)



草地(目黒天空庭園)



ビオトープ(東山公園)



キランソウ(林試の森公園)



クサイチゴ(駒沢オリンピック公園)



ウツギ(目黒川)

3-2 私たちの連携による活動

(1) 区民が行っていること



目黒区の公園等では、主にグリーンクラブや公園活動登録団体が、公園の清掃や花壇管理、雑木林の育成など公園の保全や利用促進を図るためのイベントなどの企画運営活動を行っており、区がその活動を支援しています。

① グリーンクラブの活動

グリーンクラブは「自分たちの手で、自分たちの街を美しく」という理念のもと、地域住民 3世帯以上で 1 つのグループを作り、公園や緑道等の花壇を手入れする登録制のボランティア団体です。

春(2月)・夏(5月から6月)・冬(11月)の年3回、区が配布する花苗を、指定された花壇に植え付け、年間を通じて手入れをする活動をしており、地域の方々の手で、街の美化と緑化活動を行っています。96 団体が登録・活動中です(令和7(2025)年3月末現在)。



中目黒公園のグリーンクラブ(C.G.C)



駒場野公園のグリーンクラブ(野の花クラブ)

② 公園活動登録団体の活動

公園活動登録団体として 20 団体が登録されており、9公園で維持管理や環境活動、生物多様性の取組、遊び場づくり等の活動を行っています(令和7(2025)年3月末現在)。



東山公園 目黒サンクチュアリーズ



- ◆ 東山公園のビオトープ池やその周辺の自然環境の管理を中心に活動しています。過去には池でカルガモの営巣が確認できました。



駒場野里山ホタルの会・森のみどり人



里山ホタルの会による里山保全活動の普及啓発



森のみどり人による雑木林の下草刈



里山のシンボルであるヘイケボタル

- ◆ 駒場野公園では様々なボランティアが活動しており、地域や学校と連携した自然環境を保全する取組が進められています。
- ◆ 里地里山の保全を目的として、雑木林の管理や炭焼き、そだ柵づくり、堆肥作り、野草園の管理などが行われています。



菅刈公園 NPO 法人菅刈ネット21

- ◆ 武蔵野台地と目黒川が作り出した崖線の樹林地を中心に、公園全体で自然環境の保全活動を展開しています。
- ◆ また、地域の子どもたちを対象として、年間を通した自然環境保全活動プログラム「菅刈稚塾」を開催しています。



公園内に自生している野草の勉強会



樹林地の管理(木こり体験)

表 3-11 公園活動登録団体の一覧(令和7年3月末時点)

活動場所	団体名称	活動場所	団体名称
菅刈公園	NPO法人菅刈ネット 21	碑文谷公園	碑文谷公園くらぶ
中目黒公園	さーくる・ガーデン・クラブ	東山公園	目黒サンクチュアリーズ
	いきもの池・原っぱクラブ		めぐろ遊び場づくりの会
	健康とスポーツ 2002 クラブ	目黒天空庭園・オーパス夢ひろば	NPO法人大橋エリアマネジメント協議会
	有機クラブ		目黒天空庭園栽培ガーデニングクラブ
中目黒わんわんクラブ	オーパス夢ひろば運動・スポーツ・遊びクラブ		
駒場野公園	駒場野ホタルの会	オーパス・ドッグ・クラブ	
	こまぱりボンクラブ	駒場公園	旧前田侯爵邸ガイドボランティアの会
	森のみどり人	中央緑地公園	めぐろ遊び場づくりの会@中央緑地公園
	駒場プレーパークを作る会	すずめのお宿緑地公園	あそぼう会

③ 生物多様性に配慮したお庭



個人宅でのいきものの庭の取組

◆ 個人のお宅でチョウ等の虫が訪れる花壇やカエルが生息できる水鉢の設置が行われています。



個人住宅の花壇



屋上緑化による菜園や花壇



水鉢でヒキガエルが産卵



住宅の庭に飛来したナガサキアゲハ



水浴びをするジョウビタキ

※自然通信員等区民の皆さまから寄せられた
写真を使用しています。



いきものと呼ぶ工夫

(2) 企業・学校等が行っていること



① おおはしりの杜、自由が丘のまちづくり

首都高速道路大橋ジャンクションの内側に位置する大橋換気所の屋上には、民間企業によって創出された「自然再生緑地 おおはしりの杜」があります。換気所の建物には換気のための勾配があり、その勾配を利用してかつての目黒川周辺の自然を復元しており、環境省の認定制度「自然共生サイト」や東京都の「江戸のみどり登録緑地」として認定されています。



おおはしりの杜の水田



おおはしりの杜に飛来したシオカラトンボ

自由が丘駅周辺地区では令和5(2023)年に自由が丘エリアプラットフォームにより、自由が丘未来ビジョンが策定され、みどりが豊かで都市空間の質が高いまちを目指し、公民連携によるまちづくりを推進しています。

また、自由が丘森林化計画に基づき、地元商店街による「自由が丘 丘ばちプロジェクト」として、駅近くのビルの屋上で都市養蜂が行われ、まちにバラなどの蜜源植物を広げる取組が進められています。



ビルの屋上での養蜂のようす (写真提供:自由が丘商店街振興組合)



丘ばちくん

② 民間の生物多様性に配慮した植栽 緑化の手引きパンフレット

目黒区は、「生物多様性活用緑化ガイド (パンフレット)」を作成し、公共施設や民間による建築時に生物多様性に配慮した緑化の推進を図っています。

The image shows a multi-page brochure titled '生物多様性活用緑化ガイド' (Biodiversity活用Greening Guide). It includes sections on '民間の個性を活かす' (Utilizing private characteristics), '目黒区は地域特色を活かす' (Utilizing regional characteristics in Minami-ku), and '生物多様性とは' (What is biodiversity?). It features illustrations of various plants and animals, and provides practical advice for greenery in buildings and public spaces.

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章
第8章
第9章
第10章
第11章
資料編

③ 学校ビオトープ

目黒区内の24か所(令和7(2025)年時点)の小学校等へビオトープを整備しています。導入した学校での総合学習をはじめ、様々な活用が行われています。



小学校のビオトープ



ビオトープでの目黒区職員の出前授業

④ 都立高校とボランティア団体の連携活動

駒場野公園ではボランティア団体と都立高校の生徒により、桜の根を保護するためのそだ柵(枯れ枝を活用した柵)作りが行われています。



駒場野里山ホタルの会と都立国際高校生徒によるそだ柵づくり(※写真提供駒場野里山ホタルの会)

⑤ 東京大学の学生による活動

東京大学のサークル「環境三四郎」では、環境問題の解決を目指し、駒場キャンパス内の駒場池の調査や自然観察ツアー、近隣小学校への出前教室などを行っています。



駒場池(一二郎池)でのいきもの観察

(※写真提供環境三四郎)



小学校での出前授業

かつて里山が地域に恵みをもたらしたように、今は公園が地域活動の中で私たちに様々な恵みをもたらしています。区では、公園を現代の「里山」ととらえ、みどりの拠点である公園での活動を重視しています。

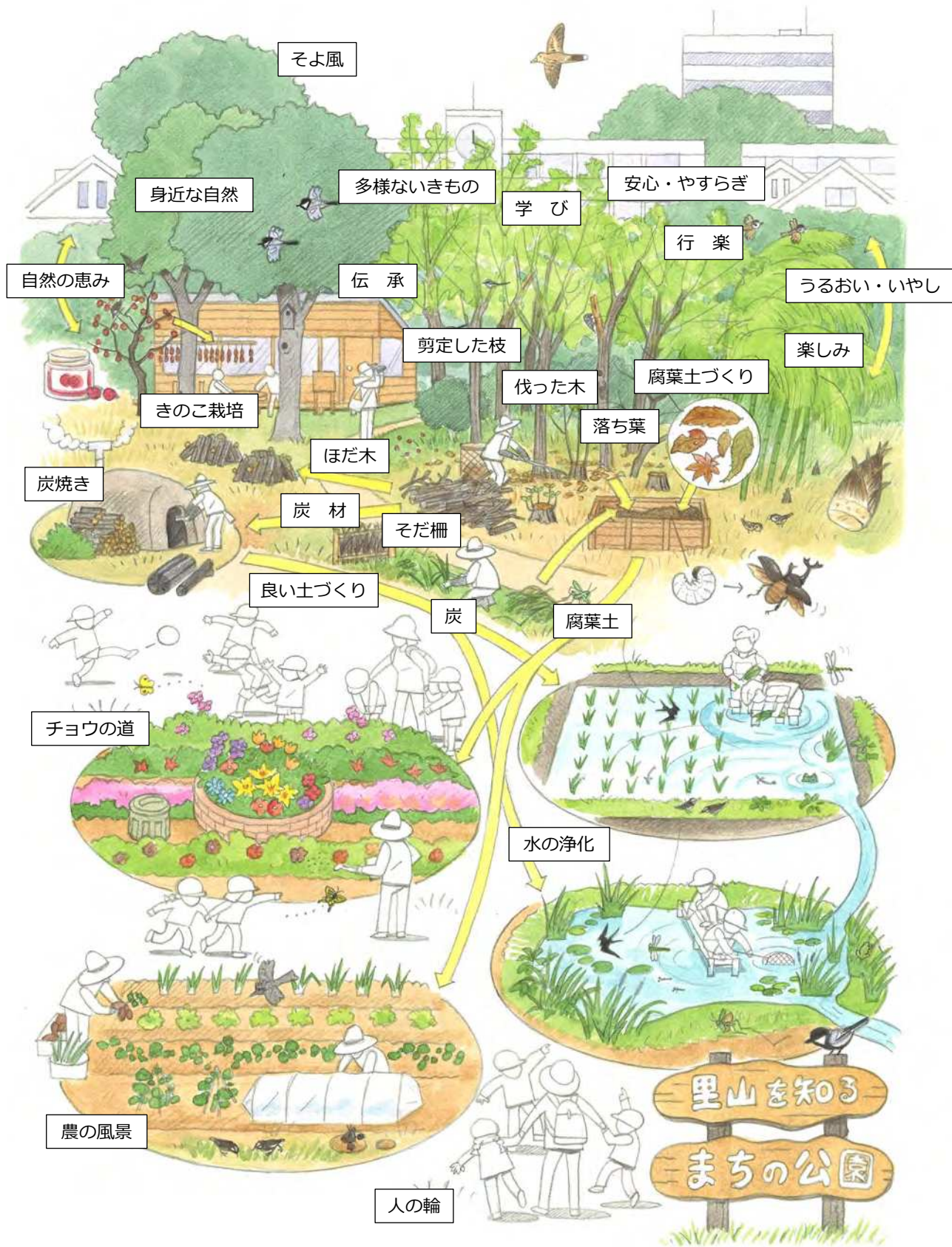


図 3-3 里山を知るまちの公園

(3)区が行っていること



① 区民や学校等と連携した生物調査

目黒区では、自然の変化を記録するため、広く区民等への呼びかけを行い、区民等から区内にいるいきものの観察記録を集めて、そこから区の自然の姿や変化を把握する様々な区民参加型の生物調査を実施しています。

情報提供を行った方に「自然通信員」として登録いただき、引き続き情報提供をお願いしています。平成9(1997)年から開始、現在約1,200世帯が登録しています(令和7(2025)年3月末現在)。



「自然通信員だより」の発行

- ◆ 集まったいきもの情報を紹介するニュースレター「自然通信員だより」を発行し、目黒区の身近な自然との素敵な出会いや、思わぬ発見のようすを伝えています。自然通信員だよりは令和6(2024)年度末時点で76号まで発行しています。
- ◆ 生物多様性の回復を進めていくための第一歩は、身のまわりの自然を知ることです。環境学習や地域の活動に活用されています。



自然通信員だより



シジュウカラの巣箱モニター

- ◆ 区の鳥シジュウカラの巣箱を配布した巣箱モニターが営巣から巣立ちのようすまでの観察記録を報告する調査です。昭和59(1984)年より実施しており、平成27(2015)年から令和6(2024)年の間に、37の巣箱で営巣し、77羽のヒナが巣立ちました。また、令和7(2025)年に目黒区総合庁舎屋上の目黒十五庭に設置されている巣箱から2羽のヒナが巣立ちました。



巣箱に入るシジュウカラ



巣箱の中のヒナ



いきもの住民会議の開催

- ◆ いきもの住民会議は、区民・自然通信員の生物調査能力の向上を図る調査会であり、区民・自然通信員同士での交流の場ともなっています。
- ◆ 毎年 1 回実施しています。もっと専門的ないきものやみどりの知識を身につけたい方は是非ご参加ください。



東京科学大学(旧東京工業大学)でのいきもの住民会議



東京大学駒場 I キャンパス
内で観察できたいきもの
スケッチ

東京大学駒場 I キャンパスでのいきもの住民会議



自然観察教室(いきもの発見隊)の実施

- ◆ いきもの発見隊は、日々暮らしている目黒区の身近な自然やいきものに直接触れることにより、生物多様性の大切さについての理解を深めることを目的として、例年春と秋に2回程度実施しています。
- ◆ このうち、目黒川で実施するいきもの発見隊は平成9(1997)年より例年実施しています。これまで目黒川いきもの発見隊ではアユやマハゼ等、27種の魚類が発見されています。令和7(2025)年には、初めてカワアナゴやゴクラクハゼが観察されました。



いきもの発見隊(目黒川)



いきもの発見隊(東京大学駒場Ⅰキャンパス)
アプリを活用したいきものの同定



グリーンデータブック「目黒区いきもの住民台帳」の発行

- ◆ 区民が見つけたいきものたちを、これまでに区が行った「みどりの実態調査」や「自然環境基礎調査」の結果と一緒に取りまとめ、紹介しています。これまでチョウやハチ、水辺のいきもの等10冊が発行され、令和7(2025)年3月に発行したグリーンデータブックでは目黒区の野鳥について紹介しています。
- ◆ 最近見かけるようになった種、今では見られなくなった種など記載されているので、地域や学校での活動、観察のヒントに活用されています。



目黒区の野鳥 Vol.2

野鳥の特徴や生態、目黒区で確認されている186種の野鳥リストが掲載されています。



過去に発行されたグリーンデータブック
(両生類・爬虫類、野草、ハチ等)

② 自然環境改善



生物多様性保全林での活動

- ◆ 生物多様性保全林とは、区内の公園や公共施設等で、持続性がある一定規模以上の緑地についてエリアを指定し、みどりの保全やいきものの生息拠点としての機能向上を図り、いきものの生息拠点となっている場所を保全するものです。
- ◆ 菅刈公園(平成 27(2015)年度指定)、駒場野公園(平成 29(2017)年度指定)、碑文谷公園(令和 5(2023)年度指定)の3か所を指定しています。
- ◆ 生物多様性保全林の指定にあたっては、地域の皆さまやボランティア団体と連携し、将来像や目標、管理方針等を定め、どのような管理・運営を行うのかを整理するとともに、自然環境の保全・回復に向けた取組を行う「生物多様性保全林事業」を行っています。

菅刈公園

菅刈公園は、平成 26(2014)年度に郷土種の植栽・育成等の方針である「すげかり平成の森植栽計画」を作成し、平成 27(2015)年度からの 3 か年の事業の中で、苗木育成や樹林地の整備、子どもたちの参加による樹林調査などを行いました。引き続き、公園内の崖線林に残る樹木の保全のために郷土種の育成等を NPO 法人と連携して行っています。

菅刈公園での活動



どんぐり林(りん)



菅刈椎塾



キノコの菌打ち

駒場野公園での活動

駒場野公園は平成 30(2018)年度からの 3 か年の事業の中で、課題の整理や大池のかいぼり、ボランティアの方々をえた意見交換などを行い、令和 2(2020)年度に、公園管理運営計画書の見直しを行いました。さらに、公園管理に携わる方だけでなく、これから携わる方にもわかりやすいよう、公園管理運営計画書の概要版として「駒場野公園の育児書 ～里地・里山の風景を未来へ～」を作成しました。

駒場野公園での活動



大池のかいぼり

そだ柵^注づくり

管理運営計画(駒場野公園の育児書)

注)そだ柵:伐採した木の幹や枝でつくる低い柵のこと

碑文谷公園での活動

碑文谷公園は、令和 3(2021)年度からの 3 か年の事業の中で、自然環境の保全・回復に向けた取組、区民との意見交換会、鷹番小学校と原っぱ調査や苗木の植付を行いました。令和 5(2023)年度には、「碑文谷公園管理運営計画書 人・いきもの共生プラン ～碑文谷の池・森を未来に～」を作成し、地域の方と落ち葉堆肥作りなどに取り組んでいます。

碑文谷公園での活動



原っぱ調査



落ち葉堆肥づくり



苗木の植付



再捕獲したウスバキトンボ

鷹番小学校との原っぱ調査を実施した際、市民調査である「ウスバキトンボ全国マーキング調査」で羽にマーキングを行ったウスバキトンボを再捕獲し、このトンボが東京都内でマーキングされて飛んできた(南西方向へ 7.5km)ことが分かりました。

※ウスバキトンボは毎年、東南アジアから海を越えて日本にやってきて九州など比較的温かい地方に移動し、気温の上昇に合わせて、たどり着いたところの水辺で繁殖を繰り返し、北上していると考えられます。



落ち葉バンクによる腐葉土づくり



枝バンク(そだ柵の材料置き場)

③ その他



目黒十五庭

- ◆ 目黒区総合庁舎に屋上緑化の情報発信地として、東京農業大学との協定に基づき、屋上庭園を整備しています。
- ◆ 屋上緑化はエコロジカル・ネットワークの重要な要素のひとつです。芝生などの地被類、ハギなどの低木、中・高木が植栽されて階層構造を成している目黒十五庭には、周辺の緑地を経由して様々な野鳥や虫などのいきものが訪れて来ます。



ヒメアカタテハ



ハクセキレイ



アカスジカメムシ



シオカラトンボ



目黒区職員ボランティアによる花壇や畑づくり



階層構造を織り成す植栽



めぐろデジタルアーカイブ

- ◆ 区民から寄せられたいきものの写真等の情報を WEB 上で掲載しています。

検索結果一覧 - 検索条件(分類:目黒のいきもの > 昆虫 > チョウ・ガのなかま) | 資料データベース | 目黒デジタル百科事典

目黒デジタル百科事典 資料データベース 文字サイズ: 小 [] 大

検索トップ 検索結果一覧

キーワード: * 全ての語を含む ○ いずれかの語を含む

分類: 選択...

この他の検索条件 再検索 (リセット)

検索条件(分類:目黒のいきもの > 昆虫 > チョウ・ガのなかま)で14件ヒットしました。(1件目~14件)

タイトル 頁数 20 件ずつ表示

アオスジアゲハ	アカハダマダラ	アゲハ (通称: ナミアゲハ、アゲハチョウ)	オ...

アオスジアゲハ

資料ID: 617

名前: アオスジアゲハ

名前(漢字): 青帯通日蝶

名前(英名): Blue-banded graphium

テーマ: 目黒のいきもの

種別: 昆虫

分類: チョウ・ガのなかま

観察記録: 駒場野ホテルの会員による記録

いきもの30選順位: 29位

*1(注釈): *2(注釈)

*1(注釈): 2012年の区創設80周年記念事業の一つとして区民投票により行われた「みんなで選ぶめぐろのいきもの60選」で、青帯通の多かった60種の順位。

【本資料の由来】
2022/04/28 駒場野公園「アオスジアゲハ」01
観察記録: 駒場野ホテルの会員による記録
撮影名: 駒場野公園
記録年月日: 2022/04/28
記録内容: 14:50ごろ、水田のゲンジウの花で取撮。
権の限定: 駒場野ホテルの会が写真及び観察を元に指定。権を限定するものではありません。種名や分類は変更される場合があります。

3-3 いきものの課題

(1)目標の達成状況



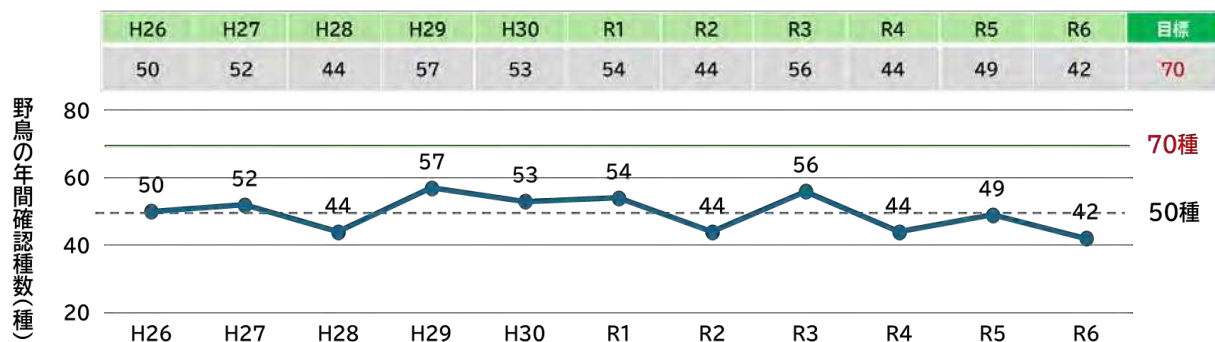
目黒区生物多様性地域戦略(平成 26(2014)年3月策定)では、まち全体にみどり豊かな環境をつくりだし、野鳥などの身近ないきものとのふれあいが広がり、自然と共生する暮らしを誰もが実践している社会を目指し、3つの目標を設定し、「取組の方向性」によって施策を進めてきました。各目標の達成状況は次のとおりです。

目標1 みどりの風景をまもり、いきものにやさしさのある環境をつくります

取組の方向性 環境形成の目標指標となる種を設定し、野鳥のすめる多様な環境をつくる

短期目標の指標①:野鳥の年間確認種数 50 種を維持し、70 種を目指す

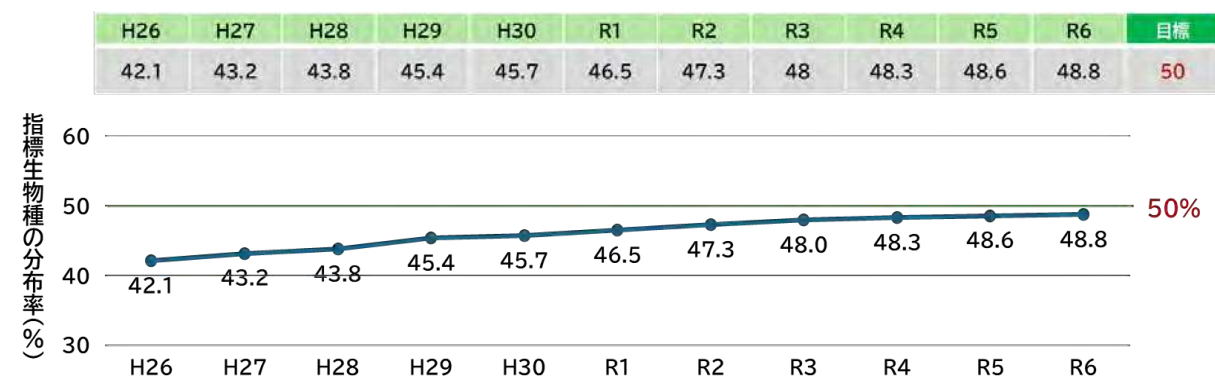
表 3-12 野鳥の年間確認種数の推移



達成状況 : 野鳥の年間確認種数は 50 種前後(年平均 49.5 種)を推移し、
一部目標達成

短期目標の指標②:タンポポ、ツバメ等(154 種)の指標在来生物種の分布率 50%

表 3-13 指標生物種の分布率※



(※区内の番地(約 2,200 区画)のうち、区民による身近な生物調査等により指標在来生物が確認された割合(累計))

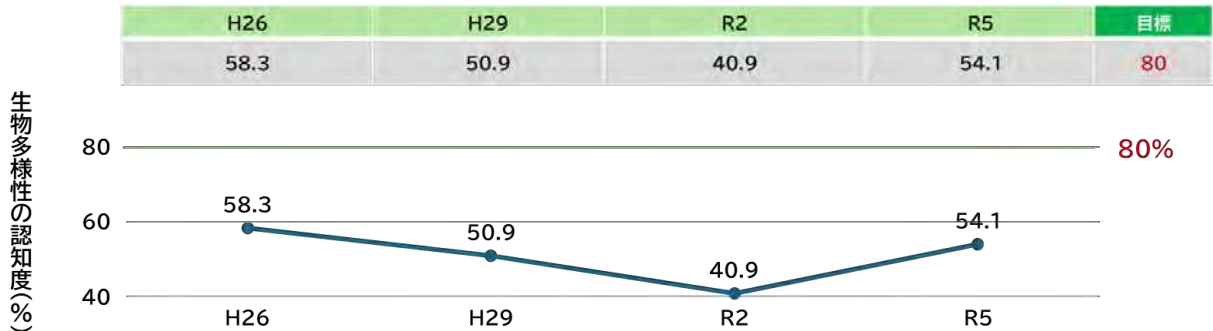
達成状況 : 指標在来生物種の分布率は上昇傾向にあり、**目標達成に向け推移**

目標2 自然とのふれあいを大切にすためぐろの暮らしを未来に伝えます

取組の方向性 親しむ・ふれあう・学ぶ暮らしを実践し、自然と共生する豊かな心を育む

短期目標の指標:世論調査における「生物多様性」の言葉の認知度 80%

表 3-14 「生物多様性」の言葉の認知度の推移(3年毎の世論調査結果)



達成状況 : 生物多様性の言葉の認知度は、**減少傾向～横ばいで推移**

目標3 すべての主体があらゆる活動で「ささえあう^{いのち}生命^わの輪」の確保を目指した協力と連携を行います

取組の方向性 協力し、連携するまちづくり活動を推進し、ささえあう^{いのち}生命^わの輪を区内全域に広げる

短期目標の指標:グリーンクラブなどの公園等で活動を行う登録団体数 120 団体、いきもの住民会議の開催の継続

表 3-15 グリーンクラブ等の登録団体数・いきもの住民会議の開催年

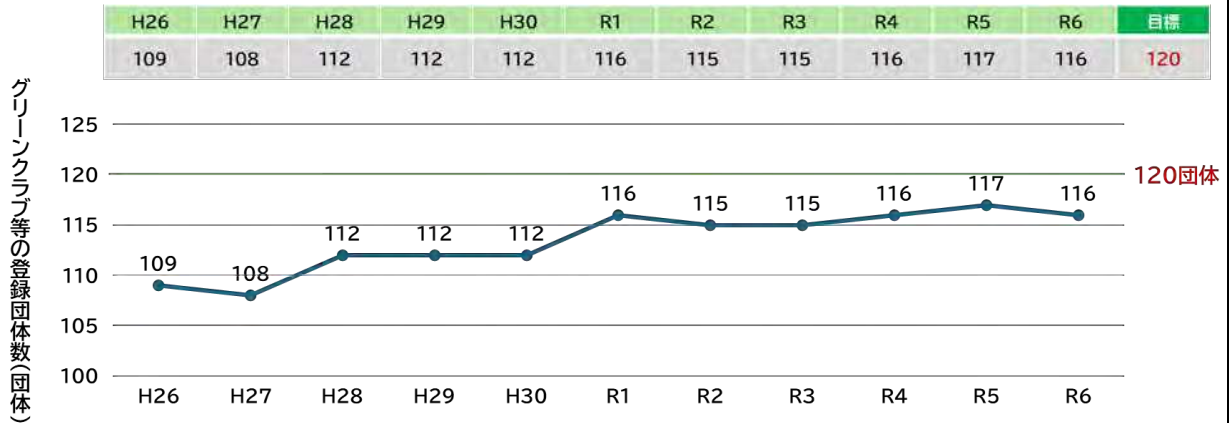


表 3-16 いきもの住民会議の開催年

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標
開催年		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	継続



達成状況①: グリーンクラブ登録団体数は、**横ばい～増加傾向で推移**
 達成状況②: いきもの住民会議は、H27以降開催を継続し、**目標達成**

(2) 取り組むべき課題

今後の生物多様性の保全に関わる課題を次のとおり抽出します。

課題 ① 生態系に配慮したみどりの保全・創出に係る取組の充実

- 短期目標の指標である野鳥の年間確認種数 70 種を目指すとともに、いきものを観察する機会を増やすなどの普及啓発を行うことで、生態系に配慮したみどりの保全・創出に係る取組を引き続き充実させていく必要があります。

課題 ② 公民連携で進める「めぐろの森」の保全管理、生物多様性や外来生物の防除の普及啓発

- 多様ないきものの生息・生育が確認されている「めぐろの森」の保全管理を公民連携で進めるとともに、これらの生息環境の重要性を区民に広く普及し、外来生物の防除や野生生物とのかかわり方への理解などが求められています。

課題 ③ 緑道や街路樹、個人の庭、生け垣、屋上緑化、プランター等のいきものの移動経路の確保

- 「めぐろの森」など重要な生息地の周辺地域においても、いきものの重要な移動経路となっている可能性を踏まえ、緑道や街路樹等の管理を継続するとともに、個人の庭や生け垣、屋上緑化、プランター等の小さなみどりをつなげていくことが求められています。

課題 ④ 生物多様性に配慮した行動の促進

- 目黒区の生物多様性の認知度は減少傾向～横ばいである一方で、都市部での消費活動が生物多様性の多大な恩恵を受けていることを踏まえ、エシカル消費^{注)}など生活の身近な問題として生物多様性に配慮した行動を促す取組の拡充が求められています。

注) エシカル消費：人や社会、環境に配慮した消費行動のこと